

教育重視・実学の神大

米田は、1965（昭和40）年11月1日に開催された創立37周年記念式典の式辞で、「大学の在るべき姿」として、「“大量教育を排す”」「“教育不在”を憂う」「大学本来の型」を語り、自身の求める大学像を示しました。

「“大量教育を排す”」では高度経済成長期の大学でみられないわゆるマスプロトロ教育を批判し、「“教育不在”を憂う」では責任ある教育の実施を力説します。そして「大学本来の型」として、大学は「学問を通して人間形成をする」ところであることをあらためて指摘し、研究に裏付けられた教育の必要を強調します。

こうした考えを背景に神奈川大学では、教育組織の拡充を図るとともに、少人数によるゼミナールや卒業研究を必修制として徹底するほか、クラス担任制度や専門学校以来貿易科で行ってきた語学を中心とした実学教育、大学院の開設等を進めていきました。

神奈川大学報 第75号

創立37周年記念式典 学長式辞

神奈川大学 創立37周年記念式典の式辞を述べる米田学長

本年は創立37周年記念式典が開催され、その式典で学長として式辞を述べた米田学長の言葉が載った記事が掲載されています。この記事は、大学の在るべき姿について、大量教育を排すべきであると主張しています。また、教育不在を憂うべきであると述べています。さらに、大学本来の型として、学問を通して人間形成をするべきであると述べています。この式典は、1965年11月1日に行われました。

創立精神

大学の在るべき姿

新しいシンボル誕生

八号館に大時計塔と大壁画

九月学園祭は来春三月完工

法政会

人文科学系

二千名を越すもの

本学の面積すもの

大学の在るべき姿

創立37周年記念式典での学長式辞
『神奈川大学報 第75号』(1965年)



在学生父母との繋がりを強化して地方で父兄懇談会を開催
福島会場で挨拶する米田（1965年）